[成果情報名]山梨県の気象条件下における放牧利用に適した暖地型牧草

[要　約]センチピードグラスとノシバは標高 700m でも越冬する暖地型牧草であり、夏季の病害が少ない草種である。また、草丈が低く、密度が高い草地を形成することから放牧に適する。

[担　当]山梨県畜産酪農技術センター・草地環境科・遠藤美杉

[分　類]技術・参考

[課題の要請元]

畜産課

[背景・ねらい]

近年、地球温暖化の影響により平均気温が上昇している。九州や沖縄では耐暑性が非常に高い暖地型牧草が利用されているが、本県では越冬が困難または利用期間が短いとされおり、寒地型牧草が利用されている。しかしながら、県内の中間地以下における寒地型牧草を利用した放牧は、夏枯れや生育停滞などの被害が増加していることから、県内の気象条件下における放牧に適した暖地型牧草を選定する。

[成果の内容・特徴]

北杜市長坂町（標高 700m）に圃場を造成し、定着が安定した 2023 年（造成２年目）以降に放牧利用を想定した月１回程度の刈取調査を行った結果、

１．合計乾物収量は、寒地型牧草のトールフェスクよりも暖地型牧草のセンチピードグラス、ノシバ、バミューダグラスで多く、造成３年目の収量が特に優れている（図１、図２）。

２．2023 年（造成２年目）６月のノシバの乾物収量が特に多いことから、合計乾物収量も多いが、2024 年（造成３年目）の合計乾物収量は、センチピードグラス、ノシバ、バミューダグラスで同程度である（図１、図２）。

３．葉枯性病害は、センチピードグラスとノシバで少ない（表１）。

４．最終刈取後基底部被度は、センチピードグラスとノシバで高く、匍匐茎により密度が高い草地を形成することから雑草の侵入も極めて少ない（表１）。

[成果の活用上の留意点]

１．ノシバは種子からの造成が難しいため、撒きシバ法（ノシバマットを細かく裁断し、苗シバを散布後、ロータリー等で覆土・鎮圧して定植させる方法）もあるが、ノシバマットの裁断や均一散布に労力が掛かる。

２．栽培適地は、平坦地～中間地である。

３．暖地型牧草は TDN 含量が低いため、肉用繁殖牛の利用が好ましい。

[期待される効果]

１．寒地型牧草が夏枯れする地域において、センチピードグラスやノシバを利用することで夏季の放牧が可能となり、春季の寒地型牧草地との組み合わせによる長期放牧が可能となる。

[具体的データ]

寒地型牧草：トールフェスク

暖地型牧草：センチピードグラス、ノシバ、バミューダグラス

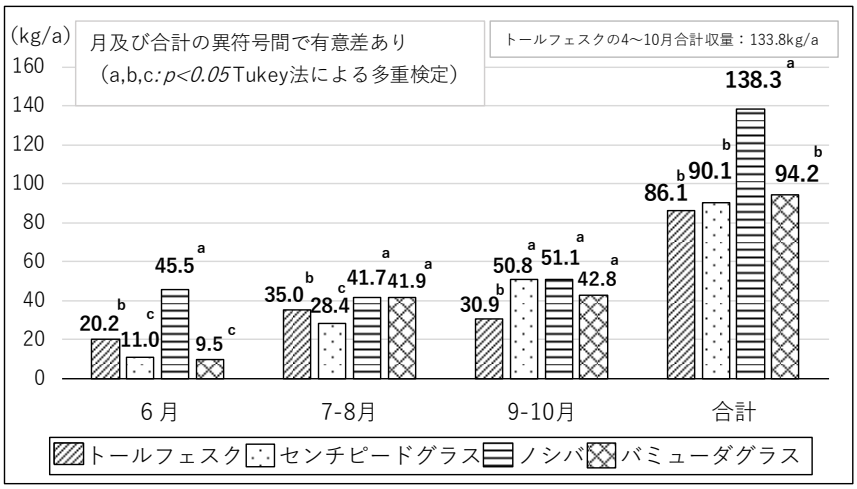

図１　2023 年（造成２年目）乾物収量

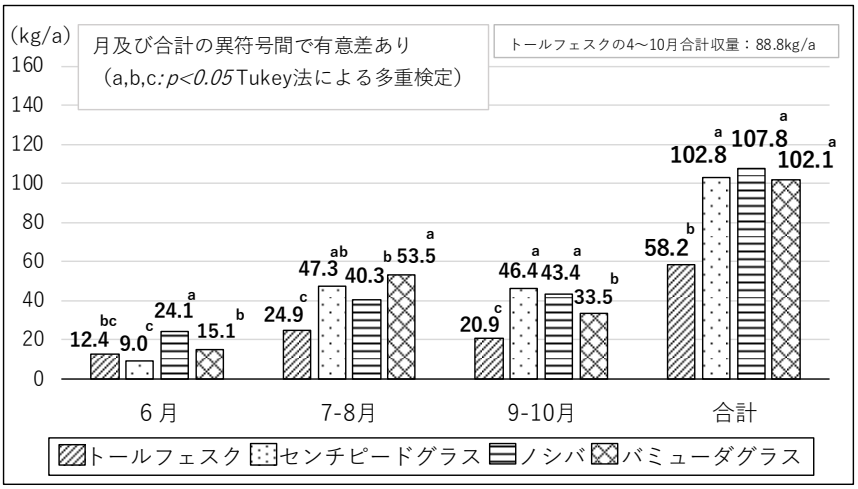

図２　2024 年（造成３年目）乾物収量

表1　生育特性

品種名/刈取日	病害程度[1)]（葉枯性病害）		2024年雑草程度(%)			2024年最終刈取後
	9月	10月	6月	8月	9月	基底部被度（%）
トールフェスク	1.0	1.0	10.0	20.0	23.3 a	85.0 a
センチピードグラス	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0 b	100.0 b
ノシバ	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0 b	100.0 b
バミューダグラス	3.0	3.0	30.0	30.0	20.0 a	93.3 b

1) 1:無～9:甚

縦列の異符号間で有意差あり（a,b: *p<0.05* Tukey法による多重検定）

[その他]

研究課題名：暖地型牧草の栽培利用技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2022 年度～2024 年度

研究担当者：遠藤美杉、保倉勝己、青木孝明